

現代邦楽

響

HIBIKI

2023

NHK邦楽技能者育成会同窓会

2023年3月11日(土)

開演 14時00分(開場:13時30分)

会場 古賀政男音楽博物館内

けやきホール 〒151-0064 東京都渋谷区上原3-6-12

## ごあいさつ

現代邦楽「響」 代表 後藤 すみ子 (2期)

NHK邦楽技能者育成会は、1955年より始まり、2010年に第55期生の卒業とともに終了いたしました。

育成会が始まった当初は、東京・内幸町にあったNHKのビルに程近い「観光ホテル」の1階ホールでのレッスンでした。当時、私の藝大時代の同級生や友人達は第1期生でしたが、ちょうどその時期にヨーロッパへ演奏旅行に出かけておりましたため、私は次の第2期生になりました。レッスンは、嬉しいことに、毎回授業の度にお茶とお菓子がいただけるという大変心温まる楽しい授業でした。

また、五線譜に関する指導を受け持たれた洋楽関係の先生から、授業の度に「あなた方は邦楽をやっている。気の毒だ…」と言われたことに奮起し、第3期生の勇気ある尺八の方々の尽力で、ついに第4期生より邦楽系の先生が受け持つようになったことも懐かしい思い出のひとつです。55年という長い年月でしたが、後年日本の伝統音楽を支え、背負って立ち、守って栄えさせていったほとんどの方もNHK邦楽技能者育成会の出身という、NHK邦楽技能者育成会の果たした役割はとても大きなものでありました。

2010年にNHK邦楽技能者育成会が終了した時、「何とかしてこの会を残したい、伝えたい」という志を持った有志が立ち上がり、NHK邦楽技能者育成会同窓会を発足させ、演奏活動を開始しました(現代邦楽「考」2013年～2016年)。その後、会員の研鑽と発表の場にと、現代邦楽「響」の活動を開始し、本日で6回目を迎えることができました。NHK邦楽技能者育成会同窓会の会員は、減ることはあっても増えることのない会ですが、大切な日本音楽の伝承のため、これからも努力してまいりたいと思っております。今後ともご後援くださいますようお願い申し上げます。

## 「ラジオを聴いていた」

山口 連山 (32期:尺八)

小学生の夏休みの早朝に各地で行われていた「ラジオ体操」は、期間限定ではあるがラジオ放送を定期的に聴いた最初の経験ではないかと思う。体操が終わった後、高学年の班長から参加の印を押してもらえることが嬉しくて毎日参加していた。

70年代に入り小学生～高校生などの青少年層の間で、主に海外の短波放送を受信・聴取して楽しむ趣味であるBCL(Broadcasting Listening/Listeners)のブームが起こった。中学生だった私もその存在を知り、夕方になると徐々に聞こえ始める全国各地から届く中波AM放送を受信しては「受信報告書」を放送局へ送り、それに対して放送局からは受信をしたことを証明する葉書サイズの「ベリカード」(Verification Card/受信確認証)が発行され、これを収集することを楽しんでた。私の実家がある山形では季節にもよるが、夜間は国内外の中波放送が良く聞こえた。夜にラジオを聴くという行為は、やがて、在京キー局(TBS、文化、ニッポン)の「深夜放送」を聴くことへ繋がっていくのであるが、この頃はまだ、番組を楽しむことよりも、遠く離れた放送局から放たれた波を自分で工夫して受信できたときの喜びの方が上回っていた。

1979年大学に進学した。それを機にラジオ放送への向き合い方が一変した。尺八との出会いがそうさせたのである。サークルの「邦楽部」に入部して尺八を吹き始めた。先輩方の吹くその音色に心を掴まれ、邦楽にハマっていくまで時間はかからなかった。勧められてNHK-FMの「今日の邦楽」(現、「邦楽のひととき」)を聴くようになった。当時は確か、毎週月曜～金曜の午後3時15分の開始で、その時間が待ち遠しかった。週末土曜は「邦楽百番」、日曜の夜には「現代の音楽」があり、毎日のように邦楽を聴くことができたのだ。

「今日の邦楽」でとりわけよく聴いたのは、古典(箏曲、地歌、尺八など)の月曜、創作邦楽などの水曜、邦楽オーディション合格者の演奏などの金曜(後に木曜に移動)の放送である。「現代の音楽」では、しばしば現代邦楽が取り上げられ、洋楽系作曲家による邦楽器を用いた作品に触れることのできる機会でもあった。それと同時にカセットテープへの録音＝エアチェックに勤しんだ。音源としてLPレコードが主だった時代、学生の私はまだターンテーブルを持っていなかったため、必然的に放送の録音は大切なものとなった。

1986年に上京すると共に育成会に入学した。その頃、民放のFM東京(現、Tokyo fm)でも邦楽の番組があった。日曜の朝7時からの小島美子氏(日本の音楽学者で国立歴史民俗博物館名誉教授)の案内による「邦楽散歩道」は、比較的現代邦楽が多く取り上げられていたように記憶している。この番組もエアチェックの対象になったことは言うまでもない。

放送を聴いて曲を知り、第一線で活躍されている演奏家の名前を覚え、邦楽の情報を得る、これは2005年頃まで続いた。録り貯めたカセットテープとMDの数は、約500個(巻)ほどにのぼる。これらは、活動する際の参考資料として今でも活用している。

時が経ち、8年前あたりからほとんどテレビを見なくなった。画面を見ることが辛くなり、ラジオ中心の生活スタイルに変えたためだ。それまでテレビを見ていた時間に民放のTBSラジオを、眠れぬ夜はNHK「ラジオ深夜便」を聴く、といった具合である。また、頻度は減ったものの、NHK-FMの「邦楽のひととき」月曜日は、可能な限り聴くように心がけている。

ただ、「邦楽のひととき」の放送枠が月曜～水曜の3回に縮小されたことを寂しく思う。そのような中にありながらも、近い将来に現代邦楽「響」による演奏が再び放送される日が来ることを願って止まない。

## 「私と育成会、そして今思うこと」

合田真貴子(34期:箏)

この文を書くにあたり、育成会30周年記念誌「邦楽育成会の歩み—現代の邦楽を求めて」を読み直してみました。そこには30年の軌跡をさまざまなデータと、受講生・講師の先生、そして関わっていらした多くの方々の寄稿文が載っていて、現代邦楽が生まれ盛んになって行った時期の様子がありありと伝わって来て、時間を忘れて読み耽ってしまいました。

ところで私が育成会に通うようになったのは、東京藝術大学卒業後、これからどうして行ったら良いか悩んでいたら、師匠である母から勧められたのがきっかけです。存在は知っていましたが、どういうところかよくわからないまま、慌てて受験準備をして無事合格。当時は藝大生が落ちることはよくあったと、後から聞きました。大学では自分で望まないかぎり現代曲を弾く機会はほとんど無く、私の学年くらいから砂崎知子先生ご指導のもと、「人形風土記」「子どものための組曲」を合奏したり、定期演奏会で佐藤敏直作曲「ディヴェルティメント」を取り上げるようになったようです。

さて入学式の日、ドキドキしながらNHKの建物に入ると、たくさんの同世代の顔が揃っていました。同期生は、北は岩手県から南は兵庫県、愛知県から10人、その他日本各地から集まって来ており、それぞれ個性あふれる面々で、圧倒される思いがしたのを覚えています。そして、凡大先生の熱い語り口に気圧されそうになり(その反面、とても繊細な図形の書いてあるノートを見せていただき、精緻な曲作りの秘密を知ったような気がして感動したり)、正邦先生に「間は魔物」としごかれたり、合宿での練習や夜の宴会での大騒ぎ…なんて密度の濃い一年間だったことでしょうか。そしてその後も演奏会に呼んだり呼ばれたり、編曲を頼まれたり、北海道の同期のリサイタルを東京の同期と聴きに行ったりと、長いお付き合いが続いているのは本当に嬉しくありがたいことだと思っています。

さて、この同窓会演奏会「響」にも何度も出演させていただき、たくさんの方と知り合い、たくさんの刺激をいただいて来ました。たとえ大先輩でも、同窓生と言うことで共に音楽を作っていく喜びを分かち合うことができるのは育成会ならではの思いです。

そして、現代邦楽のレジェンド! 後藤すみ子先生のご指導を受けられることや、日頃なかなか演奏する機会の無い大合奏の現代曲を石川憲弘先生の指揮のもと勉強し、本番に臨めることは大変貴重な経験となっています。爪のあて方から、曲の組み立て方…真剣に、でも和やかな雰囲気の中で学ぶことができ、またメンバー同士の意見交換によって曲の形ができていく体験は、曲への責任と愛情が生まれます。ただ最近では出演者が固定化して来ているので、ぜひ初めての方や、しばらくご無沙汰している方にも出演していただき、合奏の楽しさを共に味わえたら良いなと願っております。

ところで、30周年記念誌にはNHKで放送された現代邦楽の曲目リストが載っています。その数の多さに驚くと共に、今も演奏されている名曲があちらこちらに散見され、良いものは長きに渡って生き続けることを実感します。そういった曲はこれからも大切に弾き継いで行かれると思いますが、一方でその時代の新しいものを生み出していくことを常にやっていかなくてはいけないと思います。私も細々と作曲を続けていますが、演奏家ならではの楽器の良さを引き出す曲が出来ないものかいつも夢見ています。わくわくする曲に出会うチャンスが多いほど、演奏する人口も増えて行くと思いますので、邦楽器の未来のためにもたくさんの新曲が生まれて行くことを願ってやみません。

# program program

1. 箏四重奏曲 第四番

セクパン

松本雅夫 作曲

2. 第三風動

杵屋正邦 作曲

響

現代邦楽

HIBIKI  
2023

3. 3つのカプリース

秋岸寛久 作曲

4. 主題と七つの変奏

牧野由多可 作曲

NHK邦楽技能者育成会同窓会

## 1 箏四重奏曲 第四番 セクパン 〈1961年作品〉

箏 I 福本 礼美 (54期) 五味 静子 (7期)

箏 II 高須 真穂 (32期) 大澤 善子 (18期)

箏 III 合田 真貴子 (34期) 伊藤 厚勢 (12期)

十七弦 横山 裕子 (29期)

セクパンかえんじゅ (火焰樹の花) は、南方の深紅の花です。真白なこぶしの花の咲く季節になると、きまってビルマのやけつく太陽、ぬける様な紺青の空、セクパンの血のような赤が眼に浮かびます。しめつけられるような心いたい懐しさです。敗戦を中に前後四年間のビルマでの体験は余りに強烈すぎます。唯一の救いは、ビルマ人の変わらぬ優しさでした。

曲は必然的に多旋法、複リズムが取り入れられていますので、不協和な音のぶつかり合いや頻繁な拍子の変更、テンポの変化がありますので、合奏には可成りの集中力を必要とします。

(作曲者)

[正派邦楽会公刊楽譜より引用]

\*「火焰樹」

名前の由来：英名「Flamboyant (燃えるような)」からの訳であるとも、真っ赤な花が木全体に咲き、炎が燃えているかのように見受けられるところからついたとも言われています。

## 2 第三風動 〈1970年作品〉

尺八Ⅰ 岩本 みち子 (51期)

尺八Ⅱ 古屋 輝夫 (16期)

尺八Ⅲ 原郷 界山 (44期)

折柄の自分の感懐を最も適切に表す節調。

云いかえれば、どうしてもうたいたい歌。

また、うたわずにはいられない歌。

そういった多分に情動的な旋律を中心主題として構成された、長・中・短管3種の尺八のための三重奏曲です。

昭和45年9月11日 杵屋正邦

邦楽界の最新動向がひと目でわかる情報誌

毎月1日発行・A4判・770円

(同内容同価格のデジタル版もあり)

お得な定期購読がオススメ (送料弊社負担)

# 邦楽ジャーナル

(有)邦楽ジャーナルは  
【出版・通販・イベント】  
3つの柱で運営します。

◆月刊情報誌「邦楽ジャーナル」の発行

◆1900アイテム余の邦楽CD・書籍等の  
通信販売「HOW」の運営  
<http://hj-how.com>

◆コンサートやワークショップの制作



〒203-0054 東京都東久留米市中央町 6-2-5 代表・田中隆文  
TEL042-472-3870 FAX042-420-1099 info@hogaku.com

**3 3つのカプリース** 〈2012年作品〉

- 尺八 原郷 界山 (44期)  
三弦 富緒 清律 (33期)  
箏 I 一色 美枝 (34期)  
箏 II 福本 礼美 (54期)  
十七弦 梁井 圭子 (49期)

楽器演奏って、自転車や車の運転、パソコンの操作などと比べると、ずっと難しいと言われますよね。でも、地道で苦しい訓練を乗り越え、ある程度自由に楽器が操れるようになったときの喜びは、ほかでは味わうことができないものなのでしょう。そしてさらにアンサンブルまで楽しめるわけですから、全くうらやましいかぎりです。

そんなわけで、「もし楽器が演奏できたら、気のあったセンスのいい仲間たちとこんな音楽をアンサンブルしたい」という曲を作りました。本日のメンバーもきっとアンサンブルを楽しんでくれることでしょう。その楽しさが伝わって、「参加したい」と感じていただけましたら幸いです。

秋岸寛久

[初演 (2012 年日本音楽集団第 206 回定期演奏会) プログラムより転載]



## 4 主題と七つの変奏 〈1983年作品〉

指揮	石川 憲弘 (26期) [32期～39期講師]		
尺八A	岩本 みち子 (51期)		
尺八B	山本 貴之 (55期)		
三 弦	井上 美和 (55期)	竹澤 かほる (27期)	
箏 I	五月女 雅 (35期)	菊池 美恵子 (27期)	五本木 茂美 (39期)
箏 II	梅田 佳予子 (33期)	小野 宏子 (17期)	麗明 智翔 (48期)
箏 III	牧野 広美 (35期)	古宮 春海 (31期)	飯田 智奈美 (54期)
箏 IV	中畝 詩歩 (48期)	石橋 規子 (54期)	五味 静子 (7期)
十七弦A	横山 裕子 (29期)		
十七弦B	合田 真貴子 (34期)		

この曲は 創明合奏団の委嘱により、1983年9月に作曲され、同年11月22日朝日生命ホールでの第11回演奏会で指揮・小野衛氏により初演されました。

その時のプログラムより作曲者自身の解説を一部抜粋いたします。

石川 憲弘

「邦楽器による合奏のむずかしさは、ともすれば邦楽器特有の個性や微妙な音色が大人数の中に埋没されてしまったり、或は縦の線がそろわなかったり、という点にあるのでしょうか。

しかし、これらの点をよく克服した時の妙味はまことにかけがえがなく、やはり日本独特の貴重な音楽表現の世界がここに有るということを知らされます。

これはやはり一貫して指揮をして来られた小野衛氏の強力な指導力と音楽的な影響力のためなのでしょう。又、団員諸氏との信頼関係の高さも見逃せない点です。やはり、こうした合奏団は単に同志的な集まりだけではなく、技、心、両面から引っぱって行く強いリーダーが必要であるということを証明しているように思います。

さて今回、その創明合奏団から新作をとの御依頼がありました。どんな曲を書こうかと一寸迷いましたが、氏の合奏団の精度の高さを考えて、形式的にも整然とした、見とおしのよい曲にして見たいと思って変奏曲の形を借りることにしました。

曲は十小節から成る主題をもとに七つの変奏を築いたものですが、第五変奏と第六変奏には曲の中間部にもう一つの変奏が組み込まれていますので、実際には九つの変奏ということになるのかもしれませんが。

又、各変奏には、それぞれ主役となるべき楽器がクローズアップされて居り、例えば、第二変奏では尺八が主となり、第三変奏では三絃が活躍し、第四変奏では箏群がカデンツァ風な動きをし、第六変奏では尺八と三絃が主となるなど、全体にコンチェルティーノ風な扱いになって居ります。(牧野由多可)」

楽譜等に関して、小野衛先生の御子息で現在創明音楽会会長の小野正志氏（育成会19期卒）に大変お世話になりました。御礼申し上げます。

## 【NHK邦楽技能者育成会同窓会 現代邦楽「響 HIBIKI 2023」】 動画配信のご案内

本日のNHK邦楽技能者育成会同窓会 現代邦楽「響 HIBIKI 2023」の様子は、  
下記のURLまたはQRコードより、NHK邦楽技能者育成会同窓会ホームページ  
にて、後日ご視聴いただけます。

<https://hougaku-ikuseikai.com/hibiki2023>



### 現代邦楽「響」実行委員会

後藤すみ子 (2期) ※代表  
横山裕子 (29期)  
山口連山 (32期)  
高須真穂 (32期)  
富緒清律 (33期)  
合田真貴子 (34期)  
設楽瞬山 (38期)  
原郷界山 (44期)  
福本礼美 (54期) ※実行委員長  
井上美和 (55期)

[出演]  
指揮 / 石川憲弘 (26期) [32期～39期講師]  
NHK邦楽技能者育成会同窓会会員〈演奏〉

[後援]  
東京邦楽器商工業協同組合  
公益財団法人日本伝統文化振興財団  
JAPAN TRADITIONAL CULTURES FOUNDATION  
(有) 邦楽ジャーナル (五十音順)

[協力]  
舞台スタッフ / (株) 琴光堂

[企画/制作]  
現代邦楽「響」実行委員会  
gendaihougaku-hibiki@outlook.jp

NHK 邦楽技能者育成会同窓会  
n.ikuseikai@gmail.com  
Fax:03-6800-2102